

市民による平和宣言 2011

1938年、ドイツの化学物理学者オットー・ハーンとリーゼ・マイトナーが、人類史上初めてウランの核分裂実験に成功しました。そのわずか7年後には、原子爆弾が製造され、広島・長崎の多くの市民が無差別大量虐殺の犠牲者となりました。しかし、この「人類の狂気」としか表現できない犯罪行為は、米ソならびにその他の核保有国による核兵器開発製造競争というさらなる狂気を産み出しました。その結果、ウラン採掘、核兵器製造ならびに核実験による放射能汚染が、急速に地球的規模の問題として拡散していきました。

1953年末、突然、米国大統領アイゼンハワーが国連演説で「原子力平和利用」を表明し、米国は原子力発電技術の輸出に乗り出しました。しかし、この政策で米国政府が真に目指したものは、同年8月に水爆実験に成功したソ連を牽制すると同時に、西側同盟諸国に核燃料と核エネルギー技術を提供することで各国を米国政府と資本の支配下に深く取込むことにありました。日本もこの米国政策のターゲットにされ、安保体制の下で、兵器では「核の傘」、エネルギーでは「原発技術と核燃料の提供」、その両面にわたって米国に従属する形をとりました。このように、原発と核兵器は背中合わせになっている単一の問題です。そのため、一方では、国内、とりわけ沖縄の米軍基地が朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争など米国が行う様々な戦争の重要な拠点として活用され、他方では、がむしやらの原発建設で政治家・官僚・財界癒着の構造腐敗を促進し、環境破壊を拡大してきました。その結果、日本政府は、核兵器による威嚇を中心戦略とする日米軍事同盟と、原発からの放射能漏れならびに放射性廃棄物の大量蓄積の両面で、これまで多くの市民の生存権を長年脅かしてきただけではなく、国家政策に対する根本的な批判を許さないという体制を維持してきました。

スリーマイル島、チェルノブイリなどでの原発事故にもかかわらず、日本政府と電力資本、原子力産業界は「安全神話」を唱え続け、これまで様々な事故を隠蔽してきました。したがって、今回の福島第1原発での破局的事故は、大地震という天災によって引き起こされた「事故」などではなく、本来、起こるべきして起こった「人災」と呼ぶべきものです。その結果、アジア太平洋侵略戦争の戦後補償すら実行しない日本政府が、今度は原発震災で、多くの自国民のみならず、近隣諸国民・世界の市民まで放射能汚染の被害者に行っているのが現状です。

このような深刻な事態の中で、菅政権ならびに与野党のほとんどの政治家たちは、被災者が直面している様々な苦難・苦闘に真摯に対処するのではなく、自己の権力維持強化にのみ躍起になっています。放射能被害から本当に市民を守ろうという強い信念と堅実な環境保護理念に基づいた長期的エネルギー展望を全く欠いているため、政府の対応は二転三転するという無能ぶりをさらけ出しています。米国は、こうした混乱に乗じて、核戦争を想定した放射能専門部隊や海兵隊の訓練を、「トモダチ作戦」というマヤカシの名称で行いました。これが、私たちの税金から毎年2千億円近くも「思いやり予算」として受け取っている米軍の実態です。

広島・長崎の被爆者は、生涯にわたって爆風、火傷、放射能による様々な病気に苦しんできました。被爆者は、いつ癌やその他の致命的な病に冒されるか分からないという恐怖に怯える生活を今も余儀なくされています。このように、長年にわたり無数の市民を無差別に殺傷する核兵器の使用は、重大な「人道に対する罪」です。今回の福島原発事故も、内部被曝の結果、これから数十年にわたって予想もつかないほどの多くの市民をして、無差別に病気を誘発させることになるでしょう。このことから、原発事故も「無差別大量殺傷行為」となりうるものであり、したがって「非意図的に犯された人道に対する罪」と称すべき性質のもです。にもかかわらず、政府は、市民防護にはあまりにも不適切なICRP(国際放射線防護委員会)の基準をもって、原発による犯罪行為を隠蔽しようとしています。

兵器という形であれ電力という形であれ、「核と人類は共存できない」というヒロシマの叡智を、私たちはこの惨事を機会に深く再認識し、反核運動・反戦運動を拡大強化し、飛躍させなければなりません。広島が叫んできた「ノーモア・ヒバクシャ」の声の、これまでの弱さと狭さをとらえ返し、すべての核被害者の無念の想い、無数の嘆きを受けとめ、原子力科学技術に依存する文明からの根底的な転換を問わなければなりません。私たちの運動は、核・放射能兵器と原発の廃棄をめざすだけでなくとどまらず、自然エネルギーへと転換し、人間相互の関係ならびに人間と自然との関係が平和的で調和的である社会を構築することをめざすものでなければなりません。そのことを67回忌(被爆66周年)の被爆地・広島から、私たちは訴えます。

2011年8月6日

8・6ヒロシマ平和へのつどい2011 (代表/田中利幸) 参加者一同

(広島市西区天満町13-1-709 kunonaruaki@hotmail.com 郵便振替01320 6 7576「8・6つどい」)